

岐阜大学
地域科学部・地域科学研究科

Gifu University
Faculty of Regional Studies

FOREST



R

E

S

F

T

O



岐阜大学

contents

学部長からのメッセージ	1	
学部	学部案内	2
	学科紹介	3
	カリキュラムの概要	4
	授業科目一覧	5
	社会活動演習	6
	地域学実習	7
	専門セミナー	8
研究科	研究科案内	12
	専攻紹介	13
	カリキュラムの概要と授業科目一覧	14
進学・就職	15	
地域科学部の活動と成果	18	

FACULTY OF REGIONAL STUDIES
FOREST
GIEU UNIVERSITY

地域科学部

～学部長からのメッセージ～

「知の森」を一緒に探検しましょう！

岐阜大学地域科学部は、1996年に日本で最初に「地域」という名称を冠して設置された地域系学部です。地域社会と人間文化が抱える課題を発見し、その解決を図るために、「地域」をテーマとして、人文・社会・自然科学の多様な専門領域による文理横断的・学際的な教育研究が行われています。そして、深い洞察力と的確な判断力を備え、地域社会に貢献できる人材の育成を目指しています。地域との連携を含むその教育研究活動は、地方創生と地域発展の鍵として社会的に大きく期待されています。

その基盤となるのが、さまざまな分野の知見を幅広く学べて、また、同時に特定の分野の専門性を高めることができる総合的カリキュラムです。学科は、地域政策と地域文化の2つがあります。その所属は、学科の目的と開設されている授業科目から学習計画を立てて、2年前期に自ら決めます。履修の指針として、「産業・まちづくり」「自治政策」「環境政策」「生活・社会」「人間・文化」の5つの履修系統が用意されています。専門性の幅を広げるために、どれか1つの履修系統の授業科目を中心に、他の授業科目からも選んで幅広く学びます（【横軸の学習】）。そして、5学期の長期に渡る専門セミナーの連続的履修（2年後期～4年後期）と卒業研究（4年後期）により、特定の分野を深く学んで専門性を高めます（【縦軸の学習】）。それまでに、初年次セミナー（1年前期）、基礎セミナー（1年後期～2年前期）などで基礎的な学習をすることにより、その開始に備えます。その他にも、「地域研究入門」（1年前期）による導入教育、「社会活動演習」（1年前期）での体験学習、「地域学実習」（3年前期）におけるフィールドワークによる調査、報告書の作成とプレゼンなどの実践教育により、多くの経験を積んで行きます。以上、これらの基礎科目、実習系科目とともに、【縦軸と横軸の組み合わせによる座標系学習】によって、多様な分野を幅広く、特定の分野を深く学ぶことができるのです。そのため、真剣に取り組めば、豊富な知識を背景とした多面的な思考力、行動力、コミュニケーション能力などが確実に身に付きます。その他、1年間の海外留学（2年後期～3年前期）をしながらも、4年間で卒業できる「国際教養プログラム」も用意されています。

大学に入学してからは、4年先のこと、学年が進行して行くにつれては数年先のことを時々思い描いてみましょう。大学を卒業したあと、あなたは、どこで何をしているのでしょうか。または、どのようなことをしたいと考えますか。社会に出ると、時間に追われることが多くなります。しかし、大学生には自由に使える時間がたくさんあります。しかも、その自由な時間は、とてもゆったりとした速度で流れます。そのようなとき、時間には限りがあることを忘れてしまい、ただ無為に過ごしてしまいがちです。私たちは、有限の時間の中で生きています。しかし、「今」という時間は、今この瞬間にのみ存在します。それは、ただ過ぎ去るばかりで、二度と戻って来ることはありません。そのため、現在を思い描いた未来へとつなぐには、これから始まる「今」をどのようにして過ごすのか、そのことがとても大切になってきます。

地域科学部では学生と教員の距離が近く、教員は学生を温かく迎え入れ、情熱を持って指導に当たり、そして共に学びます。あとは、みなさんのやる気次第です。教員は、人文・社会・自然科学の多様な学問領域から構成される学際的な専門家集団です。何かについて知りたい、学びたいという熱い思い、または、強く関心を抱く話題を遠慮せずに、教員に直接ぶつけてください。この学部は、自分自身と向き合い、自分が学びたいことを見つけて、そして、深めることができる「知の森」（FOREST = Faculty of Regional Studies）なのです。あなたも、この「知の森」を私たちと一緒に探検してみませんか。



岐阜大学地域科学部長
岐阜大学地域科学研究科長

洞澤 伸

地域科学部

Admission Policy

アドミッション・ポリシー（入学選抜方針）

■教育理念・目標

地域科学部は、「地域」がキーワードとなるさまざまな社会的及び文化的課題について、人文科学、社会科学ならびに自然科学の基礎学力をもとにして、総合的に考究する能力を育てることを目標としています。これにより発展的な地域創成や、豊かな社会形成に貢献でき、リーダーシップを発揮できる人の育成を目指します。

■求める学生像

このような理念・目標のもと本学部の学生には、主に次のような資質を持っていることを望みます。

1. 人間社会の営みや自然との関わりに深い関心を持っている。
2. 物事をさまざまな視点から総合的かつ論理的に考えることができる。
3. 自ら課題を見つけ、その課題に対して積極的に取り組もうとする意欲を持っている。
4. 他者の考えをよく理解し、自己の意見を表現する能力を持っている。
5. 幅広い学問分野を学びながら、自己の専門分野を次第に決定してゆきたいという意欲を持っている。

Curriculum Policy

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

文系分野を主とする学生は理系の知識を、理系分野を主とする学生は文系の知識も兼ね備えることで、総合的な視野と幅広い知識を修得します。このために、人文科学、社会科学、自然科学及びそれらの融合領域に関する多彩な科目を開設しています。

一定の分野に対する専門性を高めるため、また、学生自身が学問的関心や興味のある分野を選択して学ぶことができるように、学習の指針として5つの履修系統（産業・まちづくり系統、自治政策系統、環境政策系統、生活・社会系統、人間・文化系統）を提示します。これらの5つの履修系統に即した学習を促すことにより、地域の個別課題に対する分析力および対応力を育てます。また、多文化共生の社会で活躍できるようにするために、複数の言語を使った学修を行い、国際教養プログラムなどで国際的な視野や多様な地域の文化への関心を培います。

Diploma Policy

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

教育課程において所定の単位数を修得するとともに、地域の社会や文化が抱えるさまざまな問題を、地域に根ざし地域から構想することで解決し、暮らしやすく平和で文化的に高度な地域社会を創り出すために必要な専門的能力を備えた人に学士の学位を授与します。

※抜粋（全文は本学部HPをご覧ください）

学科紹介

地域科学部は、地域が抱えるさまざまな問題を解決し、暮らしやすく平和で文化的な地域社会を創出できる人材の育成を目的とした、日本で初めて「地域」という名称を冠した学部です。学ぶ範囲は広くかつ多様ですが、2年前学期からは地域政策学科、または地域文化学科に所属し、専門性を高めて行きます。中心的に学びを深める5つの履修系統に軸足を持ちながら関連するいろんな分野の勉強をしていきますので、深い専門性と同時に広い視野を身につけることができます。



地域政策学科

主に社会科学と自然科学の協同により、自然環境を含んだ地域社会の構造的な把握と分析そして政策形成の能力の習得を関連づける教育研究をおこない、持続可能な社会を展望しつつより良い地域社会の構築を提言できる人材の育成を目指します。

産業・まちづくり系統

地域経済の理解のためには、地域の産業や経済状況を把握しなければなりません。同時に日本や世界の経済動向や、経済システムを理解することも必要になります。本履修系統では、地域から世界までを見すえた視点で、産業構造や経済システムの理解を深め、時にはフィールドワークを行い、政策立案の基礎となる専門的な能力を獲得する教育内容を構成しています。

自治政策系統

分権時代の地域の政策課題は多様化しており、1つの専門的能力だけでは対応しきれなくなっています。本履修系統では、行政学、財政学、法律学など、問題解決の基礎となる専門分野をバランスよく配置して、住民参加のあり方やNPOとの協働など、地域の新しい課題解決のための方策について学び、色々な課題に積極的に取り組む人を育成する教育内容を構成しています。

環境政策系統

本履修系統では、物理学系、化学系、生物学系、都市・建築系などの理科系の基礎的な学力を身につけ、自然界の原理と法則、自然・地球環境、生活・都市環境を、数理的考察、フィールド調査、物理学や化学の実験、コンピュータシミュレーション等を通じて深く理解したうえで、科学的知識や技術を環境政策へ生かすことができる人を育成する教育内容を、体系的に構成しています。

地域文化学科

主に人文科学と社会科学の協同により、人間社会における思想や文化的な表現、及び歴史的な経験や行動などの規範と原理を分析し把握する教育研究をおこない、人間社会に関する的確で深い洞察力を備え、社会が抱える多様な課題の解決を展望できる人材の育成を目指します。

生活・社会系統

大きく変貌をとげようとしている地域社会の現実及び地域社会の発展に関する課題を見出すためには、そこで暮らす人々の生活実態を深くとらえることが求められます。本履修系統では、社会調査や実習を通して地域住民と交流するとともに、社会学・人類学・歴史学などの専門的知識を学び、現在およびこれからのコミュニティ創造のための担い手を育成する教育内容を構成しています。

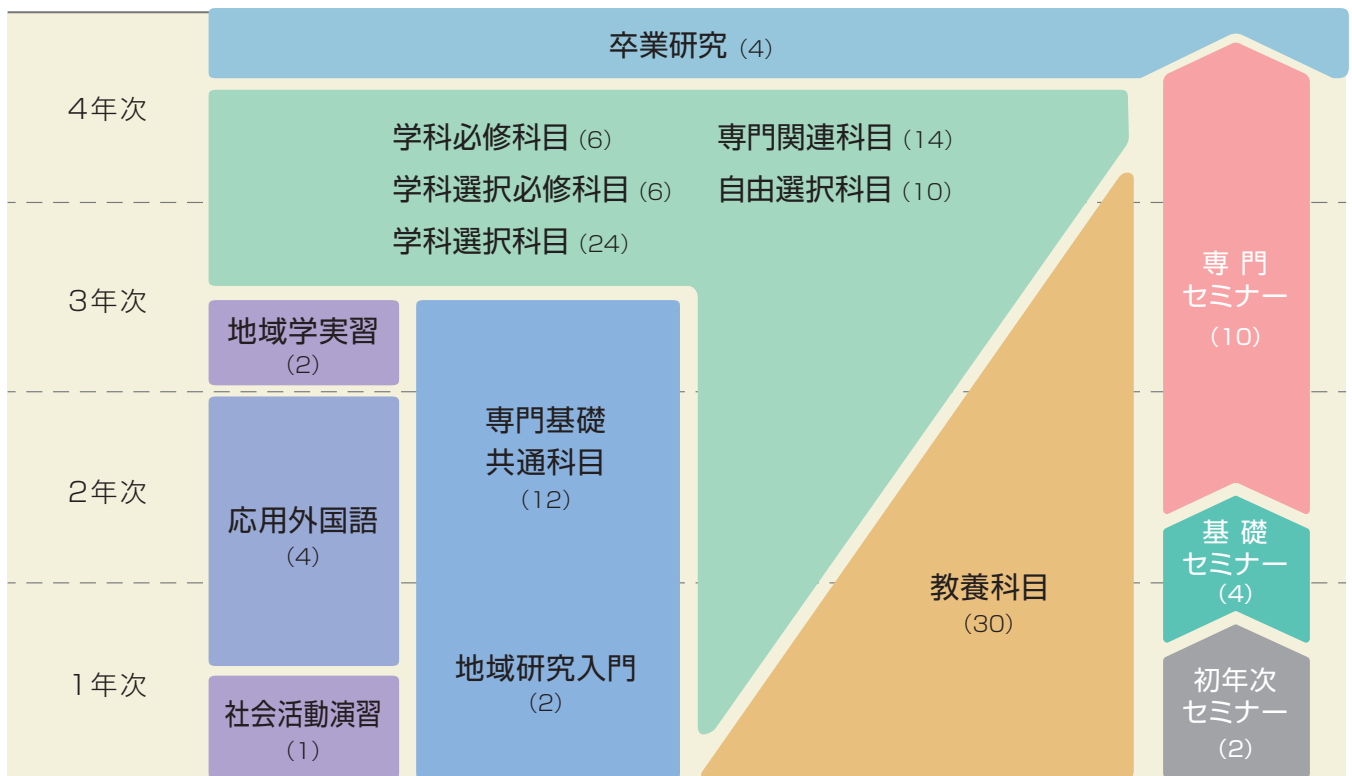
人間・文化系統

地域コミュニティは、独自の伝統文化を継承し発展させると同時に、他の社会や文化と積極的に交流することによって、さらなる活力を生み出す可能性を秘めています。本履修系統は、この視点にもとづいて、グローバリゼーションの時代にふさわしく、多様な言語・思想・文化を学ぶことで、地域文化の創造的な担い手を育成する教育内容を構成しています。

カリキュラムの概要

本学部では、人文・社会・自然の諸科学全般に関する多彩な科目を開設し、総合的な視野から幅広い知識を得ることができる一方で、2年次からは自分が特に興味を持った分野を専門的に学ぶことができるカリキュラムとなっています。また、実際に地域社会の中に出向き、地域が抱える課題に取り組む社会活動演習や地域学実習は全学生の必修科目となっており、現実即した「生きた」知識も学ぶことができます。また、4年間を通じて、少人数でのセミナー教育を行うなど、さまざまな特色ある教育プランを用意し、実践しています。

地域科学部でどんなふうに学ぶんだろう？



()は卒業に必要な修得単位数

国際教養プログラムとは？

現代に生きる人々は、グローバル化という大きな流れの中で進むべき道を見つけることが求められます。そのためには、幅広い教養にもとづいた、自分の暮らすコミュニティおよび異文化に対する深い理解が必要となります。本プログラムでは、一年間の海外留学や文理横断的な知識の習得などを通じて、地域社会と国際社会の双方で活躍できる能力を育成していきます。

具体的には右表に示すように、外国語運用能力を高める科目群Aに加え、科目群B,Cの人文・社会及び自然科学の諸分野の学習を通して幅広い教養的学識を身につけます。外国人留学生には、日本に関する知識を深める科目群Dが用意されています。

- 国際教養プログラムには地域科学部の両学科の学生が参加できます。
- 日本人学生は、海外の学術交流協定大学へ一年間の留学（原則として2年生後学期～3年生前学期）を必須としています。留学期間を含めて、4年間で卒業が可能なプログラムとなっています。
- 留学のためには、協定大学の求める語学力水準（TOEFL、IELTSなど）に達していることが求められます。留学の申請は、1年生の9月に行います。
- これまでにプログラムに参加し留学した学生は、2017年度が8名、2018年度は11名、2019年度は11名に上ります。

授業科目一覧

学 科		地 域 政 策 学 科			地 域 文 化 学 科	
履修系統		産業・まちづくり	自治政策	環境政策	生活・社会	人間・文化
専門基礎科目	必修	初年次セミナー（教養） 地域研究入門 社会活動演習 応用外国語 基礎セミナー				
	専門基礎共通科目	地理学 政治経済学 現代経済学 グローバル化概論	法学	記述統計学 微分積分Ⅰ・Ⅱ 線形代数Ⅰ・Ⅱ 物理学Ⅰ 化学Ⅰ 生物学Ⅰ	現代社会概論 教育・心理学 人間発達概論 近・現代史	哲学 文学 言語学
専門科目	必修	地域計画論	地域づくり論	推測統計学	社会調査法	ジェンダー論 言語文化論
	選択必修	計量経済学 日本経済論 地域経済論 経営学	憲法 行政法 民法 行政学	物理学Ⅱ 環境物理学Ⅰ 化学実験 都市環境工学 環境調査法	地域社会学 地域史 メディア論 文化人類学	文化基礎論 社会哲学 日本文化論 ヨーロッパ文化論 アメリカ文化論 アジア文化論 社会言語学
	選択	国際経済論 比較経済体制論 地域産業論 経済地理学 地域振興論 地域解析学 経済政策 社会政策論 労働経済学 消費経済論 会計学 マーケティング論 金融論 公共経済学 環境経済学	地方自治法 労働法 現代政治学 政治過程論 国際関係論 財政学 地方財政論 企業法 刑法 裁判法 環境法	微分方程式 応用解析学 数理計画法 物理学Ⅲ 環境物理学Ⅱ 環境物理学Ⅲ 化学演習 物理化学 生物学Ⅱ 植物生態学 動物生態学 環境保全論Ⅰ 環境保全論Ⅱ システム工学 居住環境と心理	生命倫理学 障害者福祉論 健康教育論 コミュニティ論 地域自治論 社会福祉原論 地域福祉論 老人福祉論 生活支援論 環境教育論 ジャーナリズム論 家族社会学 労働社会学 インターネット社会論 ジェンダー史 コミュニケーション論	言語と社会入門 口頭表現技法論 近・現代思想論 環境思想論 地域文化論 文化受容論 境界文化論 言語理解論 文献学 文化思想史 科学思想論 社会文化論 文化解釈論 表象文化論 文学批評論 言語意味論 言語生活論 博物館学

		科目群 A	科目群 B	科目群 B	科目群 D
専門基礎科目	応用外国語	応用外国語Ⅰ～Ⅳ 応用外国語A/B			
	基礎セミナー	言語と社会A/B			
	専門基礎共通		物理学Ⅰ 生物学Ⅰ 哲学	記述統計学 微分積分Ⅰ 線形代数Ⅰ グローバル化概論	
専門科目	地域政策学科		日本経済論 憲法 化学実験	地域計画論 民法 物理学Ⅱ 環境調査法 地域産業論 国際関係論 化学演習 生物学Ⅱ 社会政策論 推測統計学 居住環境と心理	
	地域文化学科	言語と社会入門 口頭表現技法論	アメリカ文化論 近・現代思想論 言語意味論 文化人類学	ジェンダー論 社会哲学 社会言語学 文化受容論 言語理解論 社会調査法 メディア論 文化人類学 言語文化論 アジア文化論 ヨーロッパ文化論	現代日本の社会 近代化と日本人 日本文学概論 日本の文化芸術

社会活動演習

1年生全員の必修科目である社会活動演習は、実習受け入れ先から多くのご支援を頂きながら実施される本学部独特の実習です。学生たちは、岐阜県域の企業・行政・福祉・環境・博物館などの現場における体験・実習を通じて、地域の諸課題を肌で感じながら理解を深めます。そして、岐阜大学が教育目標として掲げる3つの力と9つの要素で構成される基盤的能力、つまり自立的行動力(計画力、実行力、管理力)、コミュニケーション力(傾聴力、発信力、状況把握力)、総合的判断力(課題発見力、創造的思考力、論理的思考力)の育成のための基本的な構えとセンスを養う場として本演習を位置づけています。

具体的には、学生たちは下記の8つのプログラムのなかから希望するものを選択し、それぞれの担当教員の指導のもとで事前学習、原則として夏季休業期間を利用した数日間の実習に参加することになります。いずれのプログラムも「書を捨ててフィールドに出ること」にしており、参加学生たちは教室のなかでは決して体験することのできない「生きた知恵と知識」を体得します。

2021年度実施プログラム(指導担当教員)

- A : 裁判所・刑務所見学及びその成果発表 (三谷 晋)
- B : 地域における子どもの居場所づくり (南出 吉祥)
- C : 「まちを研究すること」を考える :
岐阜市内における景観調査と学内における行動観察 (合掌 顕)
- D : 子どもの自然体験教室のサポーター (稲生 勝)
- E : 市民ラジオ番組の制作 & 番組企画・出演 (野原 仁)
- F : 岐阜市歴史博物館で作業する (加藤 公一)
- G : 「地域の魅力発掘・発信の方法を探る：農村滞在型宿泊施設を利用して」 (堀江 未央)



市民ラジオ番組の制作 & 番組企画実習の様子



地域における子どもの居場所づくり現在訪問の様子

学生の声

2019年度入学 日比野 雅さん

社会活動演習では、岐阜市歴史博物館にて来館者への体験コーナーの補助や、バックステージの作業などを行いました。当初、博物館での作業ときいて、きっと大変な仕事ばかりだと思っていましたが、実際にやってみると思っていたよりも興味深くてやりがいのある楽しい活動でした。例えば、体験コーナーでそれぞれの来館者に対してどう説明すれば岐阜の歴史について興味を持ってもらえるのか工夫して説明の仕方を変えたり、表に出ていない貴重な資料をベストな状態に保つため、保管庫をきれいに掃除する際、資料を見たりと、歴史が好きな私にとって、とても充実した活動でした。この社会活動演習を通して、この歴史博物館の長い歴史の中で多くの人々の苦悩と、そこから成し遂げられた変化・成長について学ぶことができ、また演習中に会った沢山の人達との交流など活動演習ならではの経験を積むことができ、とてもよかったと思います。



地域学実習

地域学実習は、3年生の前学期から夏休みにかけて実施されます。講義や専門セミナーで学んだことをふまえて、フィールドに出て調査や活動を実施し、その成果をレポートにまとめるといった一連の作業を通じて、地域の課題の発見と解決に向けて主体的かつ協働的に学ぶ力を養うことを目的とした授業です。

1年生の必修科目である社会活動演習が「体験」を重視するのに対して、地域学実習では授業で2年間学んできたことを前提に、具体的な事実を実証的に解明する「方法」を学ぶことになります。受講学生は下記の7プログラムのなかから興味関心のあるものをひとつ選択し、実習に参加します。

2021年度実施プログラム(指導担当教員)

- 中濃地域における行政・中間支援・市民活動の比較研究
(富樫 幸一／甲斐 智大)
- 『障害者雇用と福祉マネジメント』(小西 豊)
- 都市の形を決める制度、計画、施策についての調査(應 江 黔)
- 「身近なモノ」を理解する(十二村 佳樹)
- 地域社会の企業・行政組織・NPOの参与観察
ー インターンシップを通して(伊原 亮司／宇山 翠)
- 下呂市飛騨金山の昔と今を知る(堀江 未央)
- 歴史史料の整理と扱い方を学ぶ(芹口 真結子)



岐阜周辺における地域づくりの比較調査風景



白川郷での聴き取り調査の様子

実習の成果は「地域学実習報告書」にまとめられるだけではなく、調査でお世話になった地元住民の皆様に対して、さらには他大学で地域学を学ぶ学生との合同研究発表会の場で公表されます。このような場でプレゼンテーション能力を身につけることも地域学実習の目標のひとつです。

学生の声

2018年度入学 古田 勇貴さん

地域学実習では、私は「都市近郊における里山の現状を知り、その利用について地域活性化の視点で考えてみる」という調査を行いました。

岐阜県は県土の約82%が森林である全国有数の森林県です。しかし、近年山村地域の高齢化・過疎化の進展等により、従来から地域住民によって行われてきた適切な森林の整備・管理は不十分となり、県内各地で未整備森林が増加しています。それにより、所有者の手入れ放棄による森林の衰退、手入れが行き届いていた里山に生息していた動植物の減少なども危惧されています。

そこで、金華山や岐阜県内の里山を実際に訪れ、現状の把握、そして利用方法について考えました。実際に訪れることで資料だけで見ると気づく点は多くあり、地域の方々のお話も聞くことができたため、自分の興味・考えをより深めることができました。地域学実習は、フィールドワークを経て岐阜県内における地域の現状、課題などを実際に肌で触れることができるため、とても有意義でした。



専門セミナー

2年次後学期から始まる専門セミナーは、地域科学部における教育の基軸となるものです。少人数で開講され、各教員それぞれの専門分野に関連する領域について、学んでいきます。学生の関心・能力に応じたきめ細やかな指導が、4年次の後学期まで継続して、行われ、卒業研究も行っていきます。

各専門分野によって、運営形式はこの専門セミナーでの学びを基に様々ですが、どのセミナーも、学生の関心により近いテーマでの研究を行うため、講義や実習とは異なったおもしろさがあります。セミナーでの議論や思考を通して、問題を発見し、解決する能力を養成することもねらいとしています。

一口に地域科学といっても、そこには対象となる現象が多種多様にありますから、専門セミナーで学ぶテーマは、『地域』を考える上での軸足となります。学生にとっては、セミナー以外の科目は、セミナーを中心に有機的に関連付けられる、ともいえるでしょう。

例えば…

■ 立石 直子セミナー

このセミナーでは、民法学を中心として、判例研究などの基本的な学習とともに、特定のテーマに関して共同研究を進めたり、ゼミ生それぞれが自身の関心に合わせたミニ論文をまとめたりしています。

具体的な研究テーマとしては、子どもや女性、障がい者、外国籍の人たちなど、脆弱性を抱えた当事者の法律問題を扱うことが多いです。最近では、生殖補助医療技術の発展に伴って複雑化する親子関係や、同性カップルの家族形成、性同一性障がい者特例法の性別変更要件の是非など、家族やジェンダーに関わる問題を法的なアプローチから考察することも増えています。また、学外での研究活動も重視しています。官公庁やNPOなどとの協働企画や、当事者支援を行う機関でのヒアリングを行うなど、文献を調べ読み込むといったスタイルにとどまらず、法的な紛争を抱える当事者の置かれている立場や当事者を支える社会資源の現状について知る機会を大切にしています。



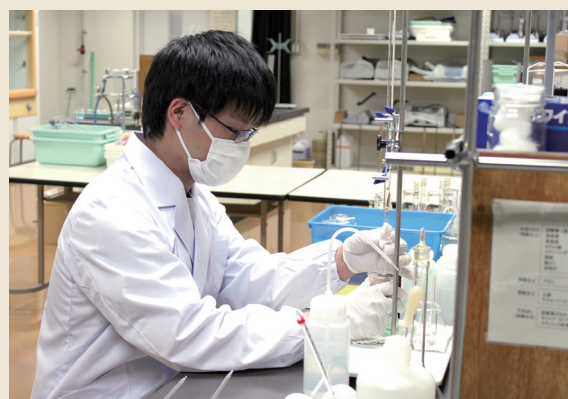
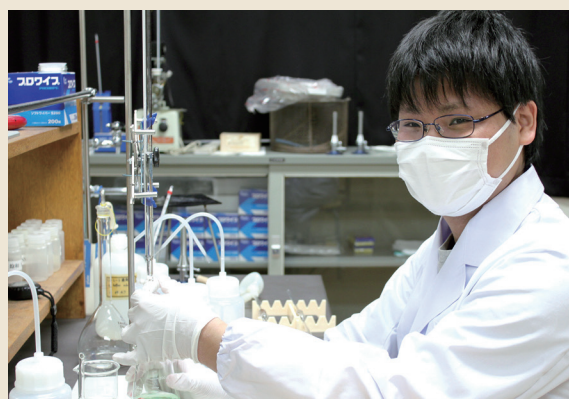
■ 和佐田 裕昭セミナー(量子化学)

化学現象の本質は何でしょうか？分子のエネルギーの観点から考えてみましょう。分子のエネルギーは、並進エネルギー、回転エネルギー、振動エネルギー、電子エネルギーからなります。

身近な水分子のエネルギーについて調べてみると、電子エネルギーが、全体の約99.97%を占めることがわかります。このことは、他の多くの分子にも成り立っています。

これは、化学現象の本質に電子の振る舞いが大きく寄与することを意味しています。つまり、化学物質から構成されているこの世のほとんどを支配するのは、電子であると言えるのです。

化学とは、分子中の電子の様子を探り、電子の振る舞いを自由自在にあやつる手だてを考える学問です。その方法には色々ありますが、私たちのセミナーでは、電子の様子を探ったり、その振る舞いをあやつる手段を、電子状態理論の立場から学んでいます。成果のひとつとして、最近、新しい毒性予測ソフトを開発して世界に提供し始めました。



■ 柴田 和宏セミナー(哲学)

本セミナーは哲学のセミナーです。とくに重視しているのは、過去の哲学者が書いた哲学書そのものをていねいに読解することです。解説書や通史的な書物を読めば、この哲学者の中心的思想はこれこれである、といった明快な説明があたえられています。もちろんこうして基本を学ぶことも重要ですが、それだけでは見落としてしまうような豊かな内容が、哲学書そのものを読んで見えてきます。文章の細かな部分にも注目し、著者はこの部分でなにを言っているのかと一つ一つ考えながら読み進める…。哲学書を丁寧に読むとは、いわば、一つの過去の知の体系を再構成するようなものです。これ自体とても知的におもしろい作業ですし、この作業をとおして論理的に一步一步考える力を身につけることができます。教員の研究対象は16、17世紀西欧の自然哲学の歴史ですが、セミナー生の卒業論文では、現代社会の諸問題に関係する哲学や倫理学の課題がテーマになることが多いです。



■ 堀江 未央セミナー(文化人類学)

人類学の視点で世界を眺めてみるとどうなるか？本セミナーでは、文化人類学がこれまで培ってきた「異文化を理解する様々な手法」を学び、それを身の回りのことに向けてみるとどうなるか、みんなで考えています。今まで当たり前だと思っていたことが、世界の様々な事例を学んだあとにもう一度見直してみると、実は当たり前ではないかもしれない。そういった可能性について考えてみるのが本セミナーの思考レッスンです。座学では、世界の様々な民族誌を読みます。家族のかたち、歴史への向き合い方、障がいのあり方など、学生の関心に応じて読む文献も様々です。その後は各自が個々の関心に基づいてフィールドワークを行います。必ずフィールドワークを行うのも本セミナーの特色です。研究テーマは十人十色で、ジェンダーや高齢者福祉、東南アジアの文化に関心がある人もいます。堀江は後方支援をしつつ、実りある調査ができるようサポートします。文献を通して得られる鳥の視点と、自分の足で歩いて得られる虫の視点とを行き来することを通じて、異文化や他者との対話の身構えを身に着け、世界を多角的に把握できる人を育てていくことを目指しています。



学生の声

2018年度入学 水上 野々花さん

私は内田ゼミで文化研究を学んでいます。このゼミでは様々な事象が研究対象になります。現にゼミ生の研究対象はアメリカン・ドリームやディズニーランド、競技かるた、eスポーツ、BLなど多岐にわたります。このような私たちの身近にある文化に対して、「どのようにして現在の文化が形成されたのだろうか?」、「その背景には何があるのだろうか?」など素朴な疑問から研究を深めていきます。

ゼミでは毎週学生2人が調べたことを発表し、これに対して他の学生が意見を述べたり質問をすることで議論を深めていきます。

私は市場や食観光について研究しています。食を目的として観光することを指す「食観光」と朝市やマルシェなどの「市場」の繋がりについて調べています。

3年後期にはオーストラリアのインバウンド政策についてまとめました。具体的には、年代ごとに作成された観光PR動画を比較し、インバウンドを促進するキャンペーンの特徴や効果などを調べました。



学生の声

2018年度入学 市岡 南遊さん



高校時代から授業の一環でデイサービスを訪問するなど、高齢者や障がいを持つ方に関わる機会が多く、福祉を深く学んでみたいと考えて生活・社会コースを選びました。

地域科学部の特色は、幅広い分野を学べる点です。入学後は興味を抱いていた福祉分野のみならず、最近話題のフェイクニュースを取り上げた「メディア論」や、引きこもりや子どもの貧困を考える「人間発達論」などを受講。そのほかにも哲学や経済学、生物学など、今まで触れたことのない分野を学ぶことで、以前より視野が広がったと実感しています。

2年後期から始まるゼミでは、興味のあるテーマを比較的自由に研究できるのが特徴で、メディア論の観点から大好きなゲームやYouTubeについて研究しています。また、2年からはゼミに所属するため、担当教官から就職に関するアドバイスを早期に受けられるのも魅力です。

入学時点では将来像が定まっていなくても、自分の視野を広げ、やりたいことを発見できる学部だと思います。



地域科学研究科

Admission Policy

アドミッション・ポリシー（入学者選抜方針）

■教育理念・目標

社会、人間のあり方及び自然に関する知見を有し、深い専門性と実践的、創造性豊かな能力によって、自然と調和した地域社会の基盤形成に寄与する人の育成が本研究科の教育目標です。

■求める学生像

地域社会、自然環境、人間社会のあり方を探究して、本質的な問題を発見し、それを総合的な視点から解決しようとする意欲と、専門分野の高い知識に加えて、複合的な視野と豊かな学術的知見を追究しようとする意識を持っていることを望みます。具体的には、次のような人を期待しています。

- ・これまでの知識や経験をもとに、さらなる学問的専門性を身につけ、地域や社会への貢献を考える人
- ・自治体、福祉団体、商工会議所などの文化政策・行政政策担当者として活躍しようとしている人
- ・地域調査関連の企業・研究機関の研究者や企業の企画調査担当者として活躍しようとしている人
- ・まちづくり等の地域活動組織で活躍しようとしている人
- ・さらに高度の知見と専門性の獲得のために博士課程進学や海外研究留学を目指そうとする人
- ・国際的に、さまざまな国や地域でその調和ある発展、振興に貢献しようとする人

Curriculum Policy

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

- ・人文科学・社会科学・自然科学及びそれらの融合領域分野を幅広く学びながら自然と調和した地域社会について、専門的に探究することのできる高度な能力を育成します。
- ・社会生活と人間文化について広く学びながら自立的で協同的な社会システムとそれに相応した文化や社会的関係の在り方を専門的に探究することのできる高度な能力を育成します。
- ・地域社会の経済、行政、自然、生活、思想や文化を研究する授業科目を履修することによって、地域社会や人間文化の諸課題を総合的な視点から追究する新しい地域研究の方法を修得します。

Diploma Policy

ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与に関する方針）

教育課程において所定の単位数を修得するとともに、地域の社会や文化が抱えるさまざまな問題を、地域に根ざし地域から構想することで解決し、暮らしやすく平和で文化的に高度な地域社会を創り出すために必要な、より幅の広い視野、より高度な専門応用能力、より大きな国際性を備えた人に修士の学位を授与します。

※抜粋（全文は本研究科HPをご覧ください）

専攻紹介

この研究科の主要目的は地域社会が抱える多くの問題をどのようにとらえ、いかなる方向の解決策がありうるか、ということについて研究・教育することです。地域の個性は複雑であり、それゆえ課題に対し定型的な答えが用意されていることはまれです。そこに地域科学という若い学問が必要とされる根拠があります。学部で勉強したことをさらに深めたいという人はもとより、予備知識は乏しくても暮らしやすい地域づくりに何らかのかたちで貢献してみたい、という想いの方を歓迎します。私たちスタッフとともに考え、ともに活動・調査してみましょう。



地域政策専攻

経済・行政・自然環境の諸領域を中心に広く学びながら、生態系と調和した循環型の地域社会について専門的に教育・研究します。

●経済社会領域

経済学の基礎理論、経済政策、ならびに地域づくり、まちづくり、農村振興そして両者が交わる地域経済や産業政策などを研究します。

●行政社会領域

法学の理論と行政法、政治学、および社会政策や地方財政などの領域からなり、行財政政策にまたがるテーマを学びます。

●自然環境領域

自然科学の発展した理論と、生態学、環境科学などを中心としており、循環型社会づくりに向けた研究を行います。

地域文化専攻

社会生活や人間文化にかんする諸領域を中心に広く学びながら、新たな人間社会とそれに照合した人間のあり方を専門的に教育・研究します。

●社会生活領域

社会学・社会福祉学・歴史学・人類学等をベースにしながら、人々の生活意識の解明を通して、望ましい生活環境づくりに向けた研究を行います。

●人間文化領域

哲学・文学・言語学・教育学・心理学等をベースにしながら、文化的存在としての個人および社会の望ましい姿を追求します。

カリキュラムの概要

- **特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ**：指導教員と相談して修士論文のテーマを決め、その準備・作成を行います。
- **特別研究**：指導教員の指示を受けて、1年次前期の夏季休業中などに集中的に行います。
- **選択必修科目**：地域政策専攻で3(経済社会、行政社会、自然環境)、地域文化専攻で2(社会生活、人間文化)、計5つの教育研究領域に各2科目ずつの選択必修科目があり、この中から2科目(4単位)以上を履修します。
- **自由選択科目**：各教育研究領域ごとに4～14の自由選択科目があり、所属する専攻の科目として6科目以上と、この他に所属専攻もしくはもう一つの専攻の科目のうちから、2科目以上、併せて8科目(16単位)以上を履修します。専門的な分野と幅広い関心に合わせて授業を選べます。非常勤講師による特別講義の他、学内の他の研究科や、他大学の大学院(互換協定を持つのは岐阜経済大学)の単位も認められます。

授業科目一覧

専攻	地 域 政 策			地 域 文 化	
領域	経済社会	行政社会	自然環境	社会生活	人間文化
選択必修科目	理論経済学特論 地域産業特論	行政法特論 行政学特論	環境物理学特論 環境心理学特論	メディア論特論 生活指導論特論	価値哲学特論 文化解釈論特論
自由選択科目	計量経済学特論 比較経済体制論特論 経済地理学特論 中小企業論特論	憲法特論 社会政策特論 民法特論 地方財政論特論	保全生態学特論 数理システム特論 数理化学特論 環境計算法学特論 都市環境工学特論 数理物理学特論	地域社会学特論 社会福祉論特論 労働社会学特論 歴史学特論 現代史特論 地域福祉論特論 社会人類学特論 文化人類学特論	日本思想史特論 生命倫理学特論 自然哲学特論 健康教育学特論 日本近代文学特論 表象文化論特論 英語圏文学特論 心理学特論 言語文化論特論 言語教育学特論 ドイツ文学特論 社会言語学特論 中国文学特論 中国語学特論
地域科学特別講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ					
特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ			特別研究		

学生の声

2019年度入学 末永 知也さん



僕は、行政学が主たる研究分野である山本公德先生のもと、ゼミ生たちと関心のある社会問題について議論を行い、知識や思考力を深めています。「行政学」と一口に行っても対象は広く、まずは行政学研究の文献を読み、幅広い分野についての知識を蓄えます。加えて、ゼミ生が意見・疑問を発したり相手と意見交換をするというように、ゼミ生が議論の主体となることで、一つの問題に対して多角の解決可能性や方策を考え巡らせる思考力を身につけています。議論で自分があまり関心のないテーマにも触れ、考えてみることで、なかなか知り得ない情報が手に入ったりそこから新しく関心を持ち始めることも可能ですし、そこにプラスして山本先生から更なる深い見識、持論など教授していただき、より深い学びにつなげることもできます。自分の意見を持ち、すすんで意見を言う環境に身を置くことで、なかなか経験できなかった「良い言い合い」ができるようになり、毎週のゼミの時間が楽しみになっています。

進学・就職概要

本学部卒業生の就職状況の特徴は、(1)公務員となる学生の割合が高いこと(2020年度卒業生では全就職決定者105名のうち32名(30.5%)、(2)地元企業への就職が多いこと、(3)金融・保険業への就職は多いものの、卸売業、小売業、製造業、情報通信業、運輸業等、多くの業種に幅広く就職していることが挙げられます。

このように卒業生たちがさまざまな業種に進む傾向にあることは、総合的・学際的な学部である本学部が目標とする学生教育(人文、社会、自然科学の多種多様な観点・立場から、地域の諸問題を総合的に捉えることのできる人材を育てる教育)のひとつの成果であるともいえます。

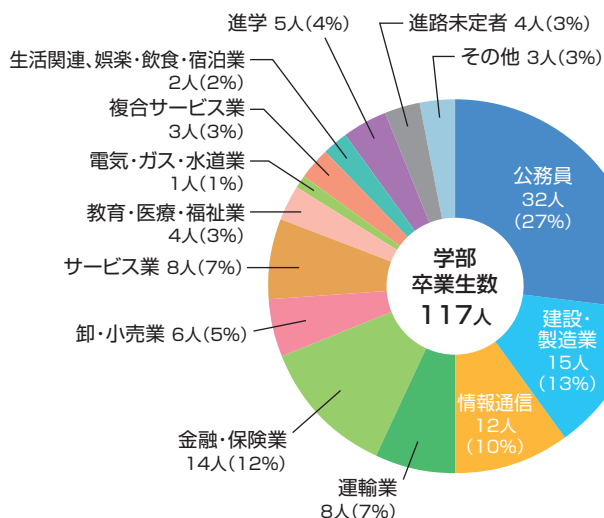
就職状況は他大学と比べても非常に良好といえます。就職不況の際にも本学部の就職状況は全国的にみても高い就職内定率を達成しており、ポテンシャルの高さを示してきました。2020年度は、新型コロナウイルス感染症流行の影響により大学生の就活は不利な状況に置かれてましたが、本学は良好な傾向を維持することができました。就職内定率(就職希望者における決定者の割合)は2020年度卒業生では96.3%となっています(2016年度から20年度の過去5年間を平均すると、卒業時の就職内定率は平均で97.0%です)。

こうした好調な就職状況の背景には、本学部の学生自身が熱意を持って就職活動に取り組んでいることがまず挙げられますが、そのほかにも、学部として学生の活動をサポートするために指導教員をはじめ、就職担当委員の配置によって学生からの相談に迅速かつきめ細やかに対応していること、大学全体のガイダンスとは別に学部独自の就職ガイダンスを実施していること(就職活動を経験した本学部学生の生の声が聴ける等)、数年に一度、卒業生が就職した主な企業に全教員が手分けして出向き、企業担当者から卒業生の仕事ぶりや採用状況を調査・検討していること、などの取り組みがなされています。さらに卒業後のサポートもしています(就職後のトラブル、転職や仕事上の悩み等の相談や情報提供をしています)。

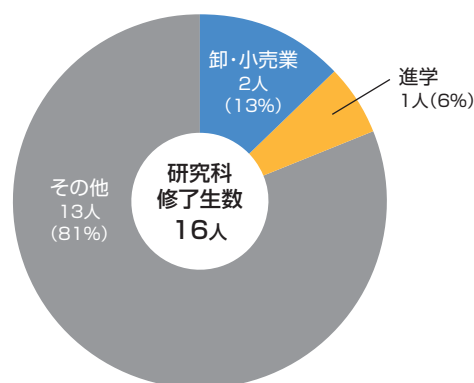
今後も、広い視野と知性を備えた地域を担う人材を育成し、自治体、企業、諸団体の期待に応えていきたいと考えています。

大学院の就職状況に関しては、大学院生には留学生、社会人が多く、留学生は修了後帰国するケースが多いことなどもあり、就職希望者が少ないです。2020年度は、修了生16名の中、日本における就職希望者が2名おり、2名とも就職が決まっています。近年では、留学生でも日本国内で専門家として就職をする場合も多くなってきています。

2020年度 就職状況(学部)



2020年度 就職状況(研究科)



進路

学部 2020年度卒業生進路状況

(2021年5月1日現在;カッコ内は人数で1名の場合は省略)

公務員(32) 厚生労働省(2) 瑞穂市 国土交通省(2) 羽島市 総務省(2) 一宮市 財務省 小牧市(2) 岐阜県(3) 愛西市 愛知県 岡崎市(2) 三重県 大府市 滋賀県 御嵩町 愛知県警察 池田町 岐阜市(4) 揖斐川町 大垣市(2)	建設・製造業(15) (株)一条工務店 (株)住居時間(スマイルタイム) 積水ハウス(株) エスピー食品(株) (株)オリバー べんてる(株) 大豊製紙(株) 大鹿(株) ヨツハシ(株) (株)未来 シーシーアイ(株) (株)オンダ製作所 豊田鉄工(株) (株)サンコーテクノ 林テレンプ(株)	情報通信(12) (株)アイキューブ (株)ウイズシステム (株)セイノー情報サービス (株)ソフィア総合研究所 (株)トヨタシステムズ (株)リトルクリエイティブセンター NDSソリューション(株) 共立コンピューターサービス(株) 日本NCR(株) 日本ユニシス(株) 富士ネットワークス(株) (株)中日新聞社
運輸業(8) (株)ヒガシトゥエンティワン 中部国際空港旅客サービス(株) 東海旅客鉄道(株) 日本通運(株)(2) 濃飛西濃運輸 名鉄バス(株)(2)	サービス業(8) 愛知県弁護士会 税理士法人ネクストワン 大進精工(株) 土地家屋調査法人ファミリア 名南コンサルティングネットワーク (株)アウトソーシングテクノロジー (株)アドプランナー 大府商工会議所	電気・ガス・水道業(1) (独)水資源機構
金融・保険業(14) (株)十六銀行(3) (株)大垣共立銀行(2) (株)名古屋銀行 岐阜県信用保証協会(2) 信用組合愛知商銀 西尾信用金庫 大垣共立銀行 大垣西濃信用金庫 全国共済農業協同組合連合会岐阜県本部 東京海上日動火災保険(株)	教育・医療・福祉業(4) (株)ツクイ SOMPOケア(株) 一般社団法人いきいきライフ協会 社会福祉法人いづき福祉会	複合サービス業(3) あいち中央農業協同 西美濃農業協同組合 飛騨農業協同組合
卸・小売業(8) (株)豊通マシナリー (株)クスリのアオキ (株)リカーマウンテン (株)八神製作所 ゲンキー(株) 大創産業(株)	進学(5) 岐阜大学地域科学研究科(4) 横浜市立大学大学院	生活関連、娯楽・飲食・宿泊業(2) 吉本興業ホールディングス(株) 他1件

卒業生数	就職希望者数	就職決定者数	進学者数	進路未定者数	その他	就職率 (就職決定者数÷就職希望者数)
117名	109名	105名	5名	4名	3名	96.33%

研究科 2020年度修了生進路状況

(2021年5月1日現在;カッコ内は人数で1名の場合は省略)

卸・小売業(2) マックスバリュ東海(株) 西日本貿易(株)	進学(1) 大阪大学大学院言語文化研究科
---	--------------------------------

修了生数	就職希望者数	就職決定者数	進学者数	進路未定者数	その他※1	就職率 (就職決定者数÷就職希望者数)
16名	2名	2名	1名	0名	13名	100.00%

※1 社会人修了生を含む

先輩たちの声

地域科学部・地域科学研究科 卒業生

2015年度地域科学部 卒業
2017年度大学院地域科学研究科 修了 葛谷 泰愼さん

明治大学商学研究科博士後期課程

2016年3月に地域科学部を卒業、地域科学研究科を2018年3月に修了いたしました。学部と大学院では、柴田努セミナーに所属し、経済学を学びました。みなさんに紹介したい地域科学部の魅力が2つあります。ひとつは地域科学部のカリキュラムです。私自身、入学当初は自分が何を学びたいのかよくわかりませんでしたが、地域科学部には幅広い専門の先生方が所属しており、いろいろな科目を受講しながら考え、そのうえで2年次のゼミ選択を通じて自分の専門を決めることができます。2つ目は、ゼミでの学びです。毎週のゼミや読書会を通じて、文章を正確に読む力や相手と議論する力などを身に付けることができました。みんなで文献について議論したり、今の社会について考えたりすることはとても面白く、はじめて学ぶことが楽しいと感じた思い出があります。

学びをより深めたいと考え、東京の大学院に進学しました。以前は憧れだった、書籍の執筆や、講義の担当などの経験も増えてきました。大変なことも多いですが、ゼミで学んだ日々が今私の支えになっています。

大学院地域科学研究科 修了生

2019年度 大学院地域科学研究科 修了 謝雨晗さん



謝雨晗と申します。中国海南省出身で、2018年4月から2020年3月まで地域科学研究科の牧秀樹研究室に所属し、言語学を学びました。恩師の牧さんは、中国の少数民族言語に深い興味を持っており、研究室には中国出身の留学生が何人もいました。みな親切で、勉強でも生活でも密接に繋がっていて、異国にいたからといって寂しいと感じたことはありませんでした。

私の修士課程での研究テーマは「カザフ語における属格主語認可に関する研究」で、データの収集や分析については、牧さんや研究室の仲間に、大変お世話になり、研究がスムーズに進められました。毎回のゼミは、みながそれぞれ取り組んでいる言語について色々な討論で盛り上がりました。研究をしているうちに、これまでにない言語学の魅力を感じるようになりました。

修士課程修了後、私は帰国し、就職活動を展開しました。最初は日本語教育の仕事に就き、日本語教師を務め、日本語に興味があり日本に留学したい学生を指導しました。その後、ゲーム会社に転職し、日本市場のマーケティングに携わってきました。どの仕事でも、留学期間に身につけた言語学や日本文化に関する知識を活用して、非常に助かっています。日本語教師をしていた時にも、「謝先生の教え方がとてもわかりやすいのは、言語学専攻だったからですか？」と学生に言われ、とても嬉しい思いをしました。

岐阜大学地域科学研究科在学の2年間は、私の一生の財産で、今にして思えば夢のような幸せな時間で、感謝の限りです。在学中の皆さんは、ぜひ学生時代にしか体験できないことを存分に味わって、専門知識をしっかり身につけ、悔いのない青春を送ってください。

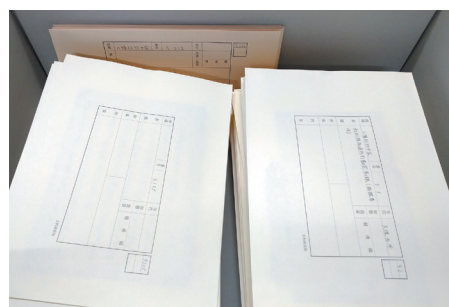
地域科学部の活動と成果

地域資料・情報センター

URL <http://rilc.forest.gifu-u.ac.jp/>

地域資料・情報センターには、岐阜県内の市町村(平成の合併前の市町村分を含む)の様々な行政・歴史・伝承・文化・観光資料に加えて、500点以上の「水」関係の資料があります。「水」は「ヒト」を含む全ての生物の源であるという観点から、環境・生活・経済・工学・伝承というように、様々な視点から学際的に収集を行っております。特に、岐阜の地域資料として、清流「長良川」の河口堰建設や、徳山ダム建設に関して、50年以上に渡る住民運動の具体的な動き、政治活動、海外環境団体の動き等3000点以上の資料を関係者から寄付していただき、整理しております。これらの資料項目は、一部の個人情報を除き、HP上に乗せ、閲覧、貸し出しも行います。地域史研究者に活用していただけるようFacebookで案内しています。

また、岐阜県を中心とした東海地域の史料を収集・整理し、目録の作成も行っています。現在は、教育学部が所蔵している「池田郡八幡村竹中家文書」(現・池田町)の史料整理を進めています。竹中家は、江戸時代に八幡村で庄屋をつとめた家で、総数5400点以上にもなる史料群は、村落の紛争や治水、中山道に関する史料など、豊富な内容を含んでいます。年1回発行している『地域史料通信』では、史料整理を進める中で発見した、興味深い史料を紹介しています。昨年度は、史料整理を終えた、郡上市野々倉地区に伝来している近現代史料を記事にして紹介しました。近世史料についても、姫君の輿入れと中山道をテーマに、「竹中家文書」と、同じく教育学部所蔵の「村木家文書」と合わせて紹介しました。今後も、多くの皆様に地域史料の魅力をお伝えし、活用できるよう、目録の作成と『通信』の発行を続けていきたいと思っています。

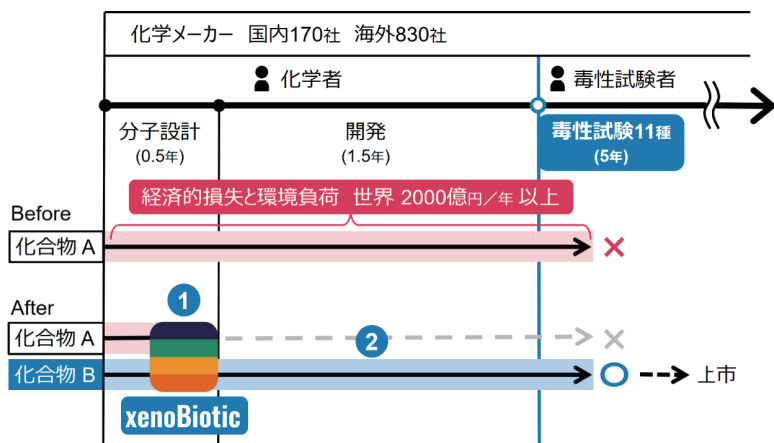


毒性予測ソフトウェア「xenoBiotic」の開発

私たちは、新しい化合物の Ames試験* の結果が予測できる化学者向けの毒性予測ソフトウェア「xenoBiotic」を開発し(<https://xenobiotic.jp/>)、その実用化のためにゼノバイオティック(代表取締役 澤田敏彦)を設立しました。同社は、岐阜大学から「岐阜大学発ベンチャー」に認定されました。

化学メーカーが医薬品や農薬、化粧品、添加剤等を対象として、有益な機能を持つ新しい化合物を開発して売り出すためには、法令やガイドラインに規定された毒性試験を通過せねばなりません。せっかく新しい化合物を開発しても毒性試験が通過できずに失敗する場合も多く、この経済的損失は世界の化学業界全体で年間2000億円以上に上ると推計されています。

xenoBioticが実用化されれば、新化合物の毒性試験の不通過があらかじめ回避でき、その結果、経済的損失を大幅に低減できます(図1)。私たちはxenoBioticを実用化して、化学メーカーのSDGsの達成に貢献します。



※世界的に普及している遺伝毒性試験。ネズミチフス菌4種と大腸菌1種の計5種の菌が、試験物質によってどの程度の突然変異を起こすかによって遺伝毒性の有無を判定する。

- ① 化合物Aは分子設計の段階で xenoBiotic の予測により毒性有の確率が高いと分かり、見直しができる
- ② 化合物Bは分子設計の段階で xenoBiotic の予測により毒性有の確率が低いと分かり、開発を継続できる

図1. 新化合物の開発プロセスにおける xenoBiotic の役割

岐阜大学公開講座（地域科学部企画）

地域科学部では研究成果を公開講座として高校生以上の一般の方々に提供しています。20年間にわたって講義形式のものから「まちあるき」体験のようなものまでバラエティーに富んだ企画を展開してきました。例年、参加者から知的な好奇心を満たすことができたという好評を博しております。大学での学びに興味のある方なら、どなたでも無料で参加できますので、是非とも地域科学部の公開講座に足をお運びください。

2021年10月に公開講座を開催する予定です。講座内容は「中国の文化－風土・歴史・文学－」（中国古典文学）、「見えないこと/無いこと/有ること/いくつも有ること」（量子化学）、「心理学で身の周りの環境を考える」（環境心理学）、「地方議会改革について」（行政法）、「プーチンのロシア20年と日ロ関係」（国際経済学）、「近世ヨーロッパの健康法と長命法」（科学史）などで準備を進めております。詳細は大学ホームページなどをご覧ください。



高校生のための街なかオープンカレッジ

「地域」が大学での学びの対象となることを体験し、地域での活動に興味をもってもらうため、地域科学部が主体となって、地元自治体や高校と「街なかオープンカレッジ」を岐阜県各地で開催しています。

2020年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、8月に予定していた岐阜市での開催は中止せざるを得ませんでしたが、10月には中津川市にて、「まち」を素材に「研究」するということ、「まち」を素材に「稼ぐ」ということを主題としたオープンカレッジを開催しました。地域で活躍する団体の職員などの講義を受け、実際にまちあるきに繰り出し、地域活動の取組について話を聞くなどし、高校生たちが自ら気づくことができる時間になりました。その後のワークショップでは、まちづくりについて考えるとともに、大学での少人数の主体的な学びを体験することができました。

今年度も開催に向けて調整を進めておりますので、高校生のみなさんは是非ともご参加ください。



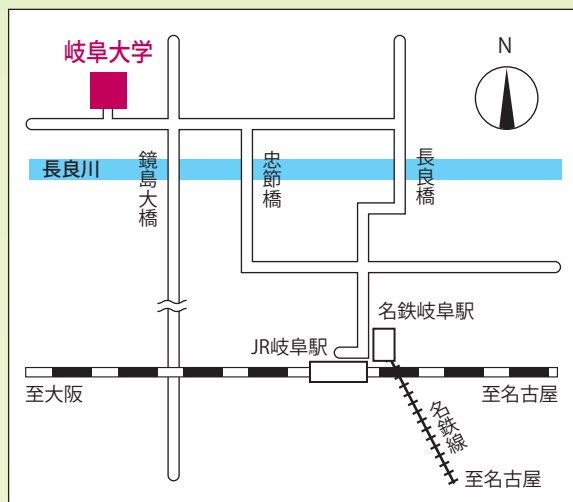
教員一覧

(2021年6月1日現在)

学 科	講 座	職 位	教 員 名(専門分野)	研究内容のキーワード
地 域 政 策	地 域 政 策	教 授	富樫 幸一(経済地理学)	人文地理学、地域経済の分析、産業調査、まちづくり
		准教授	小西 豊(比較経済学)	経済システムの国際比較、比較企業、比較制度分析、企業と社会、CSR
			三谷 晋(行政法)	行政訴訟、行政手続、環境訴訟
			山本 公德(行政学)	現代国家、官僚制、地方行政、公共性
			立石 直子(民法学)	家族生活と法、子どもの人権、ジェンダー法、法と心理の協働
			柴田 努(理論経済学)	日本経済論、政治経済学、現代資本主義論、経済のグローバル化
			宇山 翠(経済学)	産業集積、中小企業、産業発展、企業間関係、下請、地域
		助 教	小牧 亮也(憲法学)	民営化、憲法の適用範囲、憲法規範の実現、公共性
			甲斐 智大(地理学)	経済地理学、都市社会地理学、労働の地理学、地域労働市場、保育サービス、多様な働き方
	地 域 環 境	教 授	和佐田裕昭(量子化学)	電子状態、コンピュータグラフィックス、化学反応制御、溶液内の化学反応
			應 江 黔(情報工学)	情報処理、交通システム分析、交通に関わる経済問題
			合掌 顕(社会工学)	建築環境工学、バリアフリー、環境心理学、景観評価
			向井 貴彦(保全遺伝学)	生物地理、生物多様性、DNA分析
		准教授	橋本 智裕(理論化学)	分子軌道法、励起状態、大気化学反応
			神谷 宗明(物性物理学)	密度汎関数理論、線形応答理論、Coupled-Cluster理論、非線形光学
			十二村佳樹(都市環境工学)	ヒートアイランド現象、都市環境気候地図(クリマアトラス)、GIS
		助 教	中塚 温(統計物理学)	量子モンテカルロ法、自由エネルギー、相対論効果
地 域 文 化	地 域 文 化	教 授	松尾 幸忠(中国古典文学)	中国文化論、詩跡(歌枕)研究
			稲生 勝(科学哲学)	環境問題、科学・技術と社会の関係、自然観、ヘーゲル、歴史における自然科学
			内海 智仁(アイルランド文学)	小説論、アイルランド、モダニズム
			内田 勝(18世紀英文学)	文化研究、ポップカルチャー、文化史、日常の中の物語
			洞澤 伸(社会言語科学)	コミュニケーション、「若者言葉」、携帯電話、ことばと文化・社会
			橋本永貢子(現代中国語学)	日本と中国のコミュニケーション、ことばと文化、場面と表現、言語と意味と機能
			牧 秀樹(言語学)	生成文法
			笠井 千勢(英語教育学)	第二言語習得論
		准教授	ゲラン,ジル(フランス語)	フランス語
			フランクシュタイン,アレクサンドラ(ドイツ語)	ドイツ語
	地 域 構 造	助 教	柴田 和宏(哲学史)	西欧初期近代の自然哲学、物質と生命、自然観、哲学史・科学史
			平川 和(現代アメリカ文学)	SF,消費文化,小説・映画比較研究
		教 授	ラッセル,ジョン・ゴードン(文化人類学)	内なる多様性、創造、想像、鏡としての他者、ボーダレス社会、異文化交流
			野原 仁(ジャーナリズム論)	メディア政策、ジャーナリズムと権力、メディアと市民参加、テレビ文化、映像表現
		准教授	伊原 亮司(労働社会学)	管理と労働、技術、組織、権力
			南出 吉祥(生活指導論)	教育・福祉・労働、若者の自立、居場所、支援、貧困
		講 師	加藤 公一(現代史)	戦争と平和、国際関係史、現代アメリカ社会
		助 教	堀江 未央(文化人類学、地域研究)	家族、ジェンダー、移動、西南中国、少数民族
			芹口真結子(歴史学)	日本近世史、近世宗教史、仏教教団と幕藩権力、民衆教化

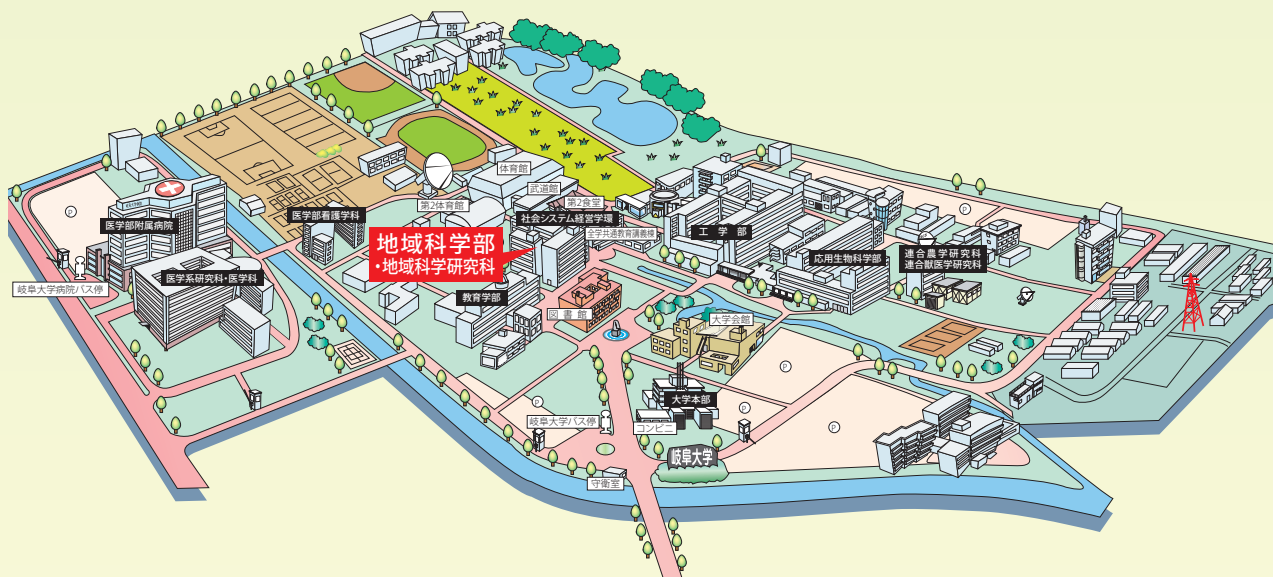
memo

Information



ACCESS

- JR岐阜駅から北西へ約7kmの場所にあり、
JR岐阜駅前(北口)・バスターミナル9番のりばから
岐阜バス岐阜大学・岐阜大学病院行きで約30分
(JR名古屋駅からJR岐阜駅まで東海道本線新快速で約20分)
- 名鉄岐阜駅から北西へ約7kmの場所にあり、名鉄岐阜駅前4番、
5番のりば及びバスターミナルEのりばから岐阜バスで約30分
- JR岐阜駅、名鉄岐阜駅からタクシーで約20分



お問合せ先

岐阜大学地域科学部

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

TEL.058-293-3009(ダイヤルイン) FAX.058-293-3008

<http://www.rs.gifu-u.ac.jp/>